

## のこぎりでザクザク つないでつけて

今回は、東春近小学校にお邪魔しました。公開していただいたのは、3年生の図画・工作の授業です。

テーマは「木切れを組み合わせる自分のイメージを見つけ出して表そう」。

前時の振り返りでは、あらかじめ具体的なイメージを持っている児童もいれば、木切れを重ねる中で見えてきたものを作りたいという児童もいました。

先生は、児童のしたいことを限定しないよう、丁寧に配慮していました。

また、デジタル機器は児童が活動の中で持った作品の完成イメージや、新たに必要になる木切れの形などを記録したり、振り返りを次時につなげたりと効果的に活用されていました。



前時の振り返りを共有して本時のめあてを明らかにする



まず接着してできあがった形をもとに考える



様々な組み合わせを試してから接着してみる



「こんな形が欲しい」と感じた時に部材を切り出す



感じた時にすぐに使える「のこぎり使用スペース」



本時の作品を撮影(↑)、振り返り(↓)、次時につなげていく

授業の指導案はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

東春近小学校 柳澤 悠先生の授業を推進センターでまとめさせていただきました

## 学習指導要領『解説』を起点とした単元構想を

伊那市が推奨する指導案に沿って授業を実施した柳澤先生からは「指導要領『解説』をしっかりと読み込み、普段とは逆の順で考えてみたら単元の構想に役立ち、安心して授業を進めることができました」という感想をいただきました。

これは、目的地（指導要領が示す児童の姿）を明確にしたうえで旅行計画を立てることに似ています。目的地を最初に確認すれば、「そこへ行くためには、この道（活動）を通るのが最も確実だ」と分かり、途中で迷うことが少なくなります（安心感につながります）。一方、地図（指導要領）を見ずに、ガイドブック（指導書）に載っている魅力的なスポット（個々の活動）から計画を立ててしまうと、「結局、自分たちはどこへ向かっていけるだろう？」という不安が生じやすくなります。

| 学年                                                                                                                                                                                                          | 教科・単元                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3学年                                                                                                                                                                                                         | 図画工作科/のこぎりザクザクつないでつけて                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <b>学習指導要領の内容および解説から</b><br>第3学年及び第4学年「A表現」<br>(1)イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、<br>とを見付けたり、表したいことや、<br>のように表すかについて考えること。<br>どのように表すかについて考えるとは、<br>ることである。例えば、心に思い描いたこと                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>単元・題材構想の立場</b><br>1学期の図工の授業では、絵の<br>たりする中で見えてきたものを生<br>めている。前の単元では、捨つて<br>ている。<br>本単元では、授業の中では初めてののこぎりを使用。多くの子どもたちが、まだ扱ったことの                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>単元のデジタル学習基盤</b><br>スクールタクトを使って本時の活動<br>メージや、新たに必要になる木切れの形などを記録しておくことで、次時の活動に繋がりを持た<br>せることを目指したい。                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>本時の展開</b>                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <b>学習活動</b><br>・本時の学習問題を設定する。<br><b>学習問題：</b> 木切れを組み合<br>・作品例を観賞や、組合せのアイ<br>アを出し合う活動を行<br>い、本時の学習問題を共有<br>し、本時の自分の製作の見通<br>しをもつ。<br><b>学習課題：</b> 木切れの組合せ方を試しながら、動物や植物、乗り物や身近な物などの形にしたり、自由におもしろい形を生み出したりしよう。 | <b>指導・支援・留意点</b><br>「学習活動」「指導・支援・留意点」「使用機器・<br>コンテンツ」などの書き方のポイントは「ICT活用教<br>材DB」収録されていますので参考にご覧ください。<br>の見通しとして板書に位置づける。<br>・教師が用意した幾つかの部材の組合せ方を問いかけ、出された<br>アイデアを追求の見通しとして板書に位置づけると共に、自分の<br>追求の見通しをもてるようにする。<br>・「こういうものを作りたい」という具体的なイメージをもっ<br>ている児童と、木切れを重ねるなかで見えてきたものから作りた<br>い児童がいることが想定される。児童のしたいことを限定し<br>すぎないよう留意する。<br>※解説のために指導案の一部を抜粋しました。 |
| <b>使用機器・コンテンツ</b><br>・iPadのスクールタクトで前時<br>の振り返りを確認する。                                                                                                                                                        | ・学習指導要領の該当する箇所を貼り付けます。<br>・「解説」の文言を修正すると「単元の目標」になりま<br>す。<br>・その目標の文末を「～している」に変えれば「評価基<br>準」になります。<br>・児童生徒にとって「何のために何をするのか」をはっ<br>きりさせましょう。メインの活動をリアルに思い描き<br>ましょう。<br>・単元で活用するデジタル教材・機器が適時・適切に<br>活用されるよう配慮しましょう。<br>・授業で活用するデジタル教材・機器が適時・適切に<br>活用されるよう配慮しましょう。                                                                                     |



← センター推奨指導案は「ICT活用教材DB」内にあります。  
解説と指導案のテンプレートを、ぜひ活用ください。

伊那市学校教育情報化ビジョン2024

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自主的な学び

子どもと共に未来を創る教員